

第3回 「幼児教育の実践の質向上に関する検討会」

Cedepにおける調査・研究が含意するもの



遠藤 利彦

(東京大学)

ghh00052@nifty.com

発達保育実践政策学センター

(Cedep) とは

- ▶ 日本学術会議・第22期マスタープラン採択を受けて、2015年7月に東京大学・大学院教育学研究科附属として設立された、乳児期からの保育・教育を研究する研究機関



Cedep

大規模・園調査から見えてきたもの

3

□ 各保育・幼児教育施設の協力者と配布数・回収率

- 各施設の園長、主任、担任（1・3・5歳児担任）に回答を求めた

幼稚園

・送付：
3402園
・回収率：
約40%

認定
こども園

・送付：
2565園
・回収率：
約45%

認可
保育所

・送付：
4937園
・回収率：
約50%

小規模
保育所
（地域型
保育）

・送付：
1654園
・回収率：
約35%

認可外
保育施設

・送付：
7821園
・回収率：
約15%

7100超施設、**30,700名**が回答

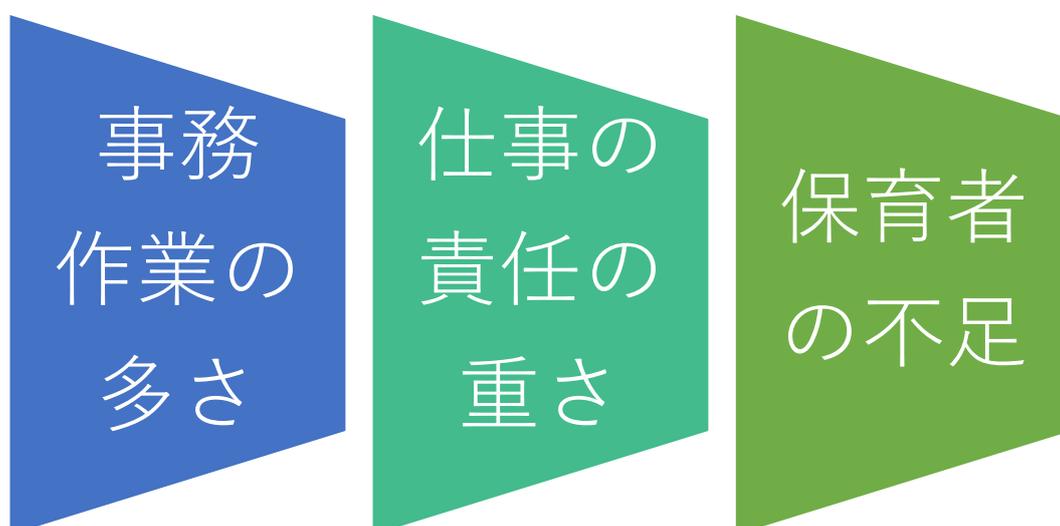
4

負担感の分析結果

5

担任保育者の職務負担感

- ワースト 3 に共通して入った項目
(いずれも 5 段階中 3.5 点以上、園長・主任・担任全て)



担任保育者には給与の低さも負担として認識されていたが、
事務作業の負担・人手不足の方がより大きな負担となっていた。

6

5 とても負担を感じている、4 やや負担を感じている
 3 どちらともいえない、2 あまり負担を感じていない
 1 まったく負担を感じていない

・園長先生の負担感

	度数	平均値	標準偏差
5位 労働時間の長さ	6838	3.28	1.262
4位 日常的な休暇を取りにくいこと	6832	3.34	1.263
3位 研修時間を十分に確保できないこと	6834	3.34	1.089
2位 保育者の不足	6814	3.68	1.213
1位 事務的作業の多さ	6844	3.75	1.166

・主任の先生の負担感

	度数	平均値	標準偏差
5位 日常的な休暇を取りにくいこと	6584	3.21	1.26
4位 労働時間の長さ	6591	3.3	1.229
3位 保育者の不足	6575	3.57	1.221
2位 事務的作業の多さ	6584	3.58	1.176
1位 仕事の責任の重さ	6057	3.81	1.055

7

・1歳児クラス担任の先生の負担感

8

	度数	平均値	標準偏差
5位 休憩時間を十分に取れないこと	5165	3.09	1.256
4位 給与が十分でないこと	5160	3.35	1.239
3位 事務的作業の多さ	5159	3.51	1.208
2位 仕事の責任の重さ	5161	3.52	1.098
1位 保育者の不足	5155	3.58	1.22

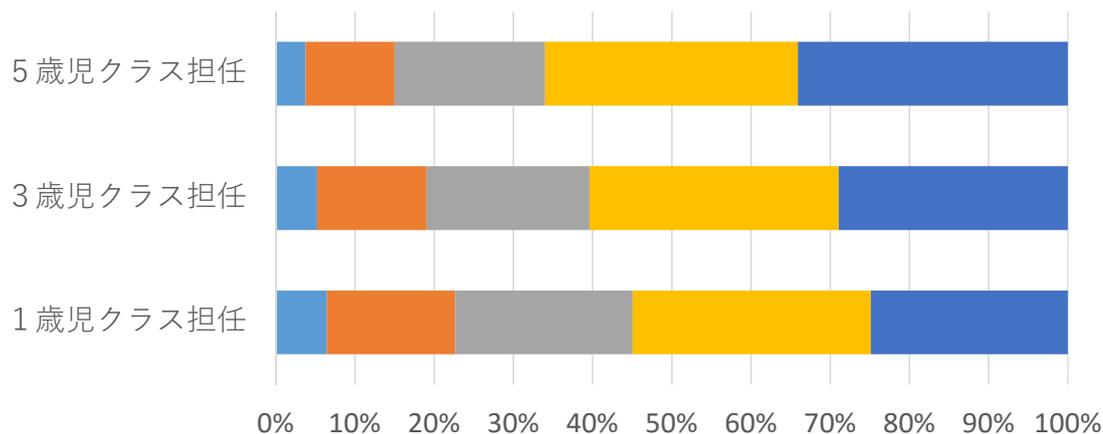
・3歳児クラス担任の先生の負担感

	度数	平均値	標準偏差
5位 労働時間の長さ	5592	3.31	1.208
4位 給与が十分でないこと	5579	3.45	1.236
3位 保育者の不足	5585	3.55	1.208
2位 仕事の責任の重さ	5591	3.57	1.075
1位 事務的作業の多さ	5592	3.65	1.182

・5歳児クラス担任の先生の負担感

	度数	平均値	標準偏差
5位 給与が十分でないこと	5620	3.44	1.221
4位 労働時間の長さ	5637	3.46	1.198
3位 保育者の不足	5624	3.57	1.203
2位 仕事の責任の重さ	5634	3.65	1.082
1位 事務的作業の多さ	5623	3.81	1.134

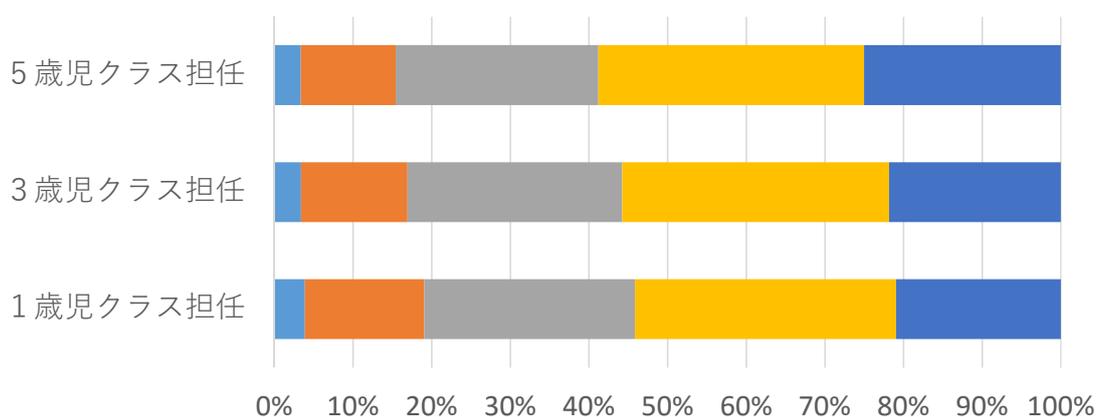
事務的作業の多さ



	1歳児クラス担任	3歳児クラス担任	5歳児クラス担任
■ まったく負担を感じていない	6.5	5.2	3.8
■ あまり負担を感じていない	16.2	13.8	11.2
■ どちらともいえない	22.4	20.6	19.0
■ やや負担を感じている	30.1	31.5	31.9
■ とても負担を感じている	24.8	28.9	34.1

9

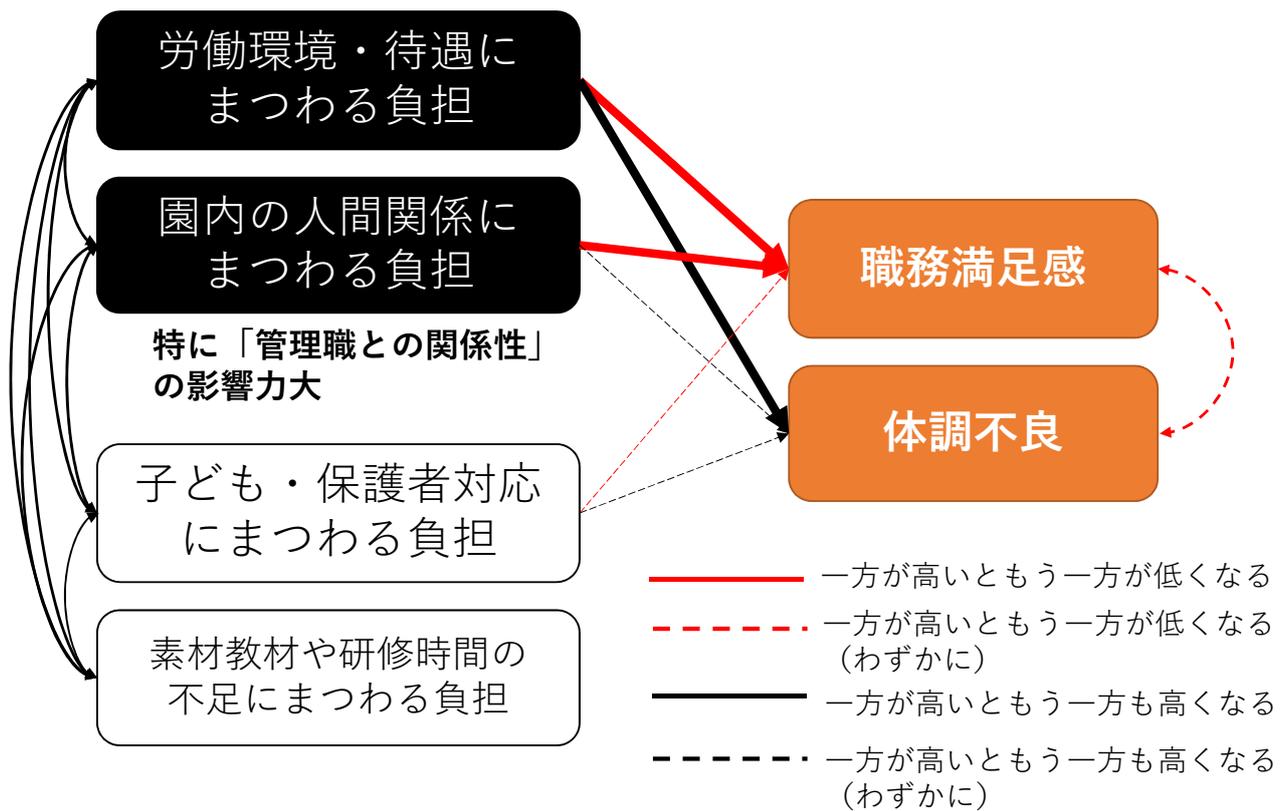
仕事の責任の重さ



	1歳児クラス担任	3歳児クラス担任	5歳児クラス担任
■ まったく負担を感じていない	3.9%	3.4%	3.4%
■ あまり負担を感じていない	15.2%	13.5%	12.1%
■ どちらともいえない	26.8%	27.3%	25.8%
■ やや負担を感じている	33.2%	33.9%	33.8%
■ とても負担を感じている	20.9%	21.8%	25.0%

10

職務満足感の低さにつながる負担感



プロセスの質
(かかわり)
の分析結果

「かかわり」の構造

1歳児クラス

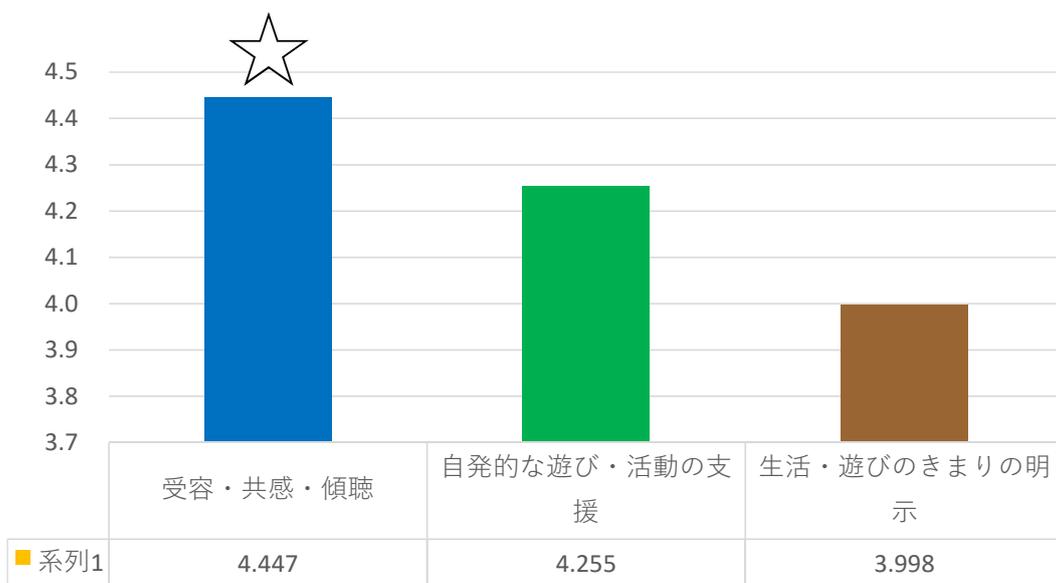


3歳児クラス・5歳児クラス



※いずれかが高いと、もう一方も高いという構造が認められた

「かかわり」の特徴（1歳児クラス）

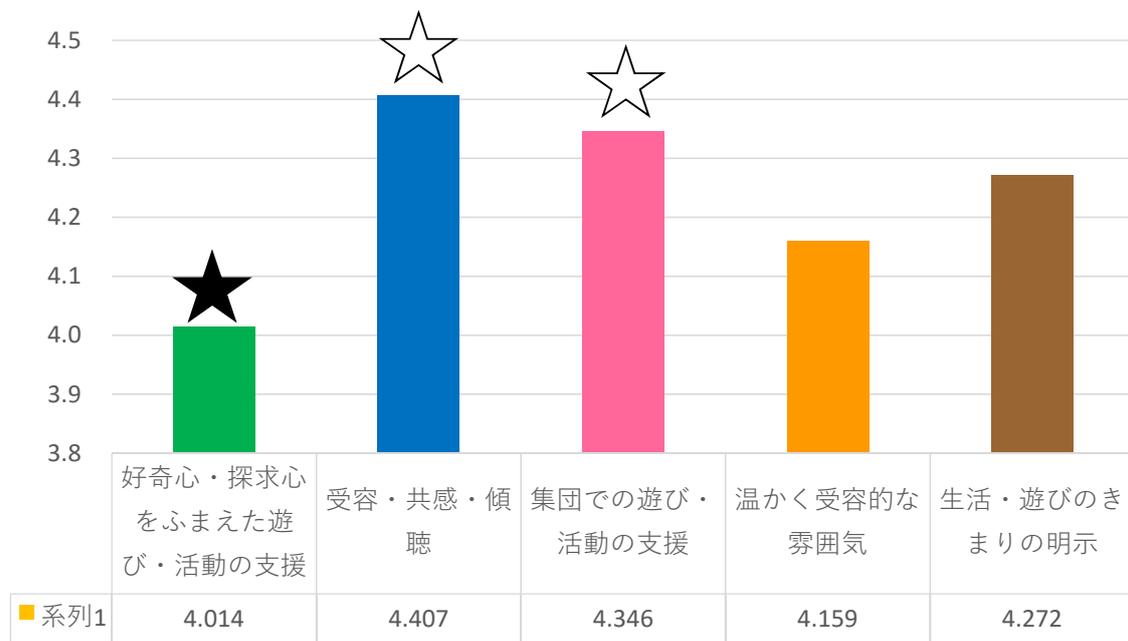


回答者数：5062名

※5段階評定（1 - 5）

- 子どもたちの悲しみや怒り等の感情表現を受け止めている
- 子どもたちの喜びや感動表現に対して肯定的に対応している
- 子どもに個別に話しかける際、目線の高さを合わせている 他

「かかわり」の特徴（3歳児クラス）



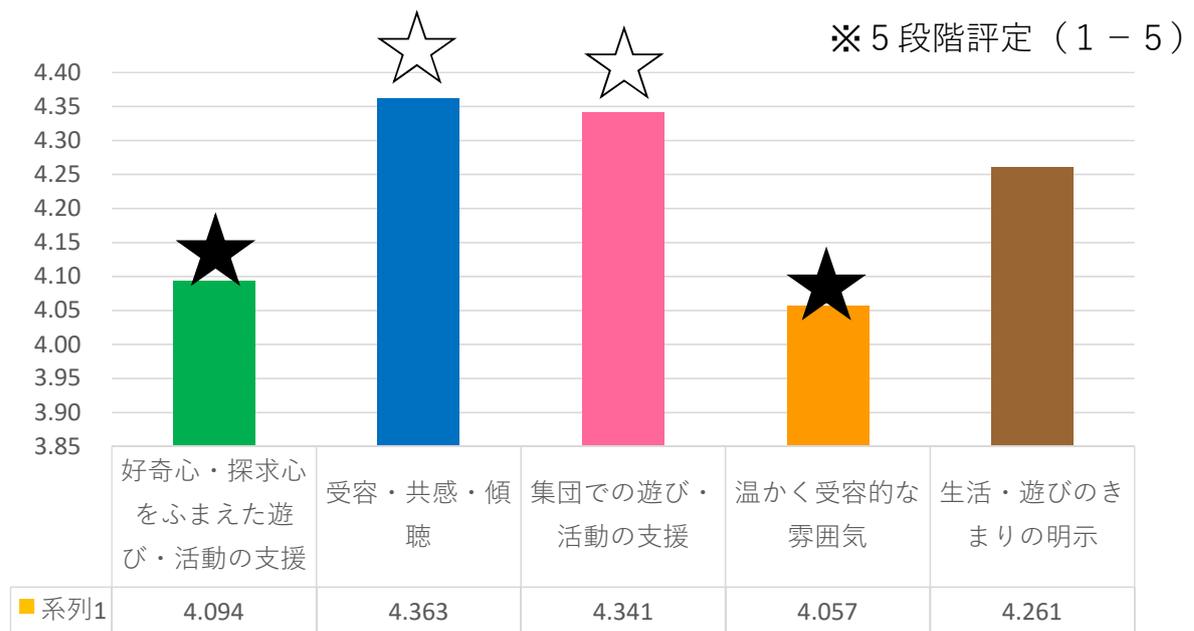
回答者数：5416名

※5段階評定（1 - 5）

子どもが身の回りの物に興味や関心をもつことを促している
子どもの疑問や好奇心をくみ取り、遊び等に反映させている
子どもの疑問や好奇心について保育者や他の子と共に考える 他

15

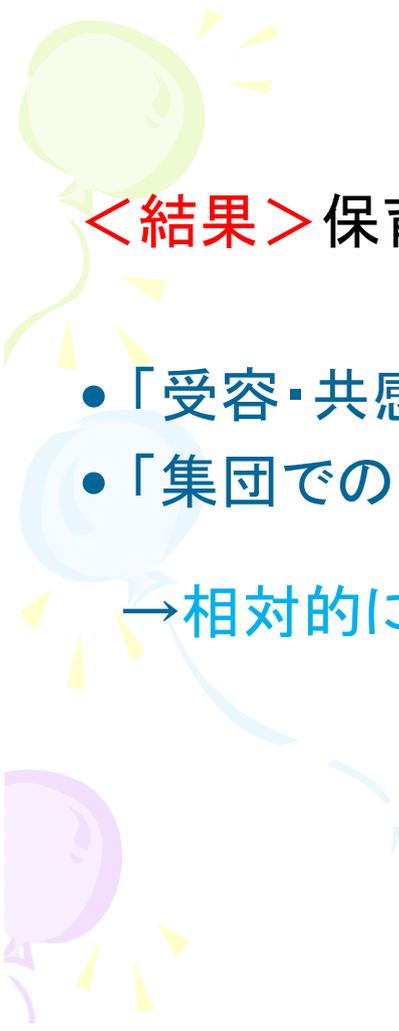
「かかわり」の特徴（5歳児クラス）



保育者の子どもたちへの接し方は温かいものである
子どもたちが自分の考えや欲求を表現しやすい雰囲気である
クラスは落ち着いてくつろいだ雰囲気である

回答者数：5444名

16

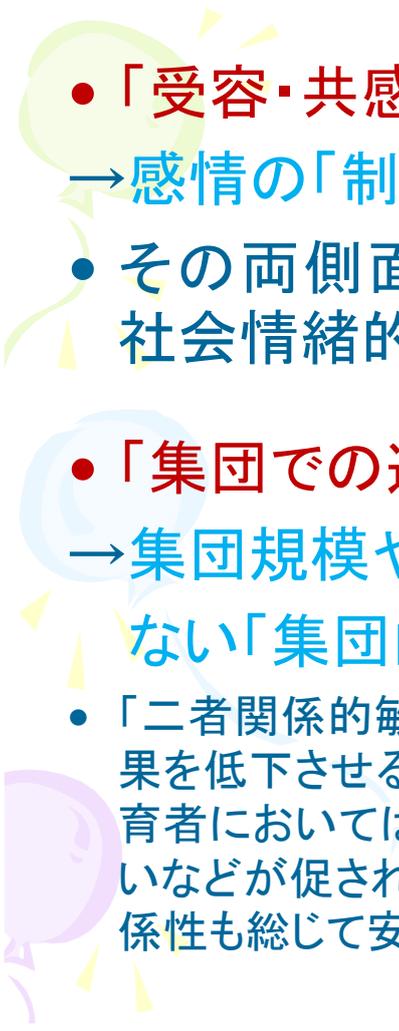


<結果> 保育におけるかかわりの質

- 「受容・共感・傾聴」(全年齢)
- 「集団での遊び・活動の支援」(3・5歳児)

→ 相対的に高い自己評価

17



● 「受容・共感・傾聴」

→ 感情の「制御・調整」と「調律・映し出し」の効果

- その両側面が伴った関わりは子どもの種々の社会情緒的発達を最も効果的に支え・促す

● 「集団での遊び・活動の支援」

→ 集団規模や「子ども・大人」比にあまり左右されない「集団的敏感性」の有効性

- 「二者関係的敏感性」が集団サイズの増大とともに相対的に効果を低下させるのに対して、「集団的敏感性」を豊かに備えた保育者においては、子ども同士の協調的・親和的關係性や学び合いなどが促され、結果的に保育者と個々の子どもとの個別の關係性も総じて安定・良好なものになる傾向がある

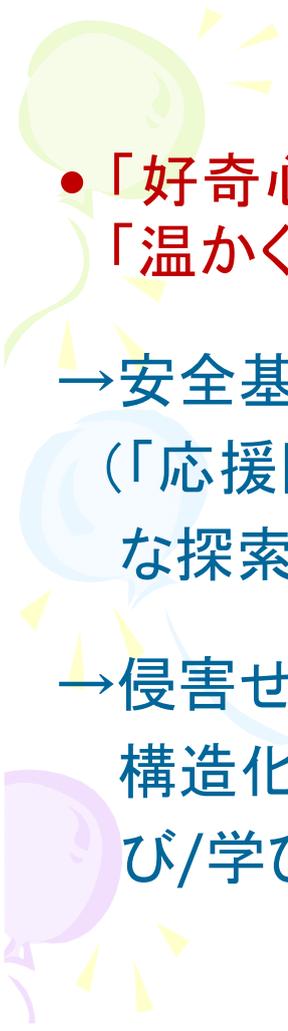
18

- 
- 日本の保育現場において暗々裏に、また伝統的に培われてきた保育の強みなのか？
 - 微視的観察等を通したより細部・深層に踏み込んだ科学的吟味の必要性
 - また、その長期的な効果を縦断研究を通して検証していく必要性
- 

19

- 
- <結果> 保育におけるかかわりの質
 - 「好奇心・探求心をふまえた遊び・活動の支援」(3・5歳児)
 - 「温かく受容的な雰囲気」(5歳児)
- 相対的に低い自己評価
- 

20

- 
- 「好奇心・探求心をふまえた遊び・活動の支援」
「温かく受容的な雰囲気」

→安全基地として温かい情緒雰囲気を背後から（「応援団」として）醸しながら、子どもの積極的な探索を支援することの有効性

→侵害せずに見護り、時に「黒子」として環境の構造化を図りながら、子ども個々の自発的遊び/学びを支え、自律性の発達を促す

21

- 
- この自己評価の低さは、いかに保育の実態を反映しているのか、あるいはそれがあつ程度、現実のものだとすれば、何故に生じているのかについての科学的吟味の必要性

- （殊に年長児になるほど）物理的環境の制約が結果に関与している可能性？

- 「制約された」物理的環境の中で、それをどう高め得るのかの実践的解明の必要性

22

リーダーシップの分析結果

23

「リーダーシップ」を捉える視点

- 質の高い保育・幼児教育のためには、園長先生のリーダーシップを含む専門性向上が重要
(Sims et al., 2014; Siraj et al., 2015).
- リーダーシップは、「学び続ける組織」とそのポジティブな変化や成長に不可欠 (Fullan, 2001).
- 効果的なリーダーシップは、子どもたちの学び・健康・社会性の発達・ウェルビーイングにポジティブな影響
(Siraj-Bratchford & Manni, 2007).

24

「分散型リーダーシップ」への着目

階層的リーダーシップモデル

- **カリスマ性や権威のある**リーダーが、あらゆる運営、計画、指示を行い、他のスタッフが従う (Rodd, 2013).



分散型・協働的リーダーシップモデル

- 組織のどこにでもリーダーシップが存在する (Raelin, 2003)
リーダーの多いチーム
- **非階層的、柔軟、応答的**：組織のあらゆるレベルで、適切な知識や専門的技術をもち、主導し、変化や新しい機会を捉え、挑戦する力のあるリーダーが出てくる (McDowall Clark & Murray, 2012).

25

「分散型リーダーシップ」の構造

26

(Siraj-Blatchford & Hallet, 2014)

方向付けのリーダーシップ

- ヴィジョンの共有を促す
- 効果的なコミュニケーション

協働的リーダーシップ

- チーム文化の醸成
- 保護者との協働

分散型リーダーシップ

他者を力づけるリーダーシップ

- 他者の主体性を引き出す
- 変化の過程

教育のリーダーシップ

- 学びを促す
- 省察的学びを促す

▶ 項目作成にあたって参照した他の研究:
国内の園長リーダーシップの質的研究、国内の校長リーダーシップ研究、看護師リーダーシップ研究、TALIS 2013

本調査結果から得られた リーダーシップの構造

①組織の運
営・園の風土

②専門性向上
の支援

③日々の保育
実践の援助

④方針・理念
の明示

⑤保護者との
連携

ある観点に注力されている施設長は、別の観点にも力を入れておられた（5領域の得点には正の相関）

27

園長のリーダーシップ 項目例

28

①組織の運営・園の風土

- 職員の仕事に対する意見や要望等を尊重している
- 職員が意見等を出しやすい雰囲気を作っている
- 職員がやりがいを持って働き続けやすいよう支援している

②専門性向上の支援

- 保育制度や政策に関わる情報収集を積極的に行っている
- 保育実践に関わる書籍や保育雑誌を積極的に購読している
- 園外研修や学会等に積極的に参加している

③日々の保育実践の援助

- 保育計画や保育日誌等の内容を確認している
- 新任の保育者に子ども等との関わりを指導している
- 園内を回り、子どもや保育者の様子を見ている

④方針・理念の明示

- 園の経営理念・方針を明確に示している
- 園の保育理念・方針を明確に示している

⑤保護者との連携

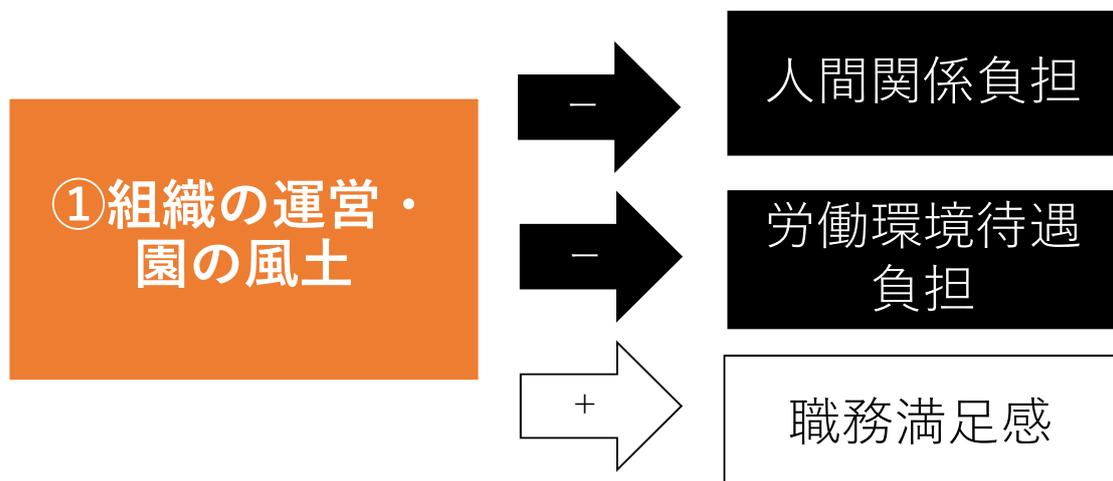
- 保護者からの要求・要望に応じている
- 保護者からの要求・要望に率先して対応している

29

園長のリーダーシップと
担任保育者の負担感・満足感

30

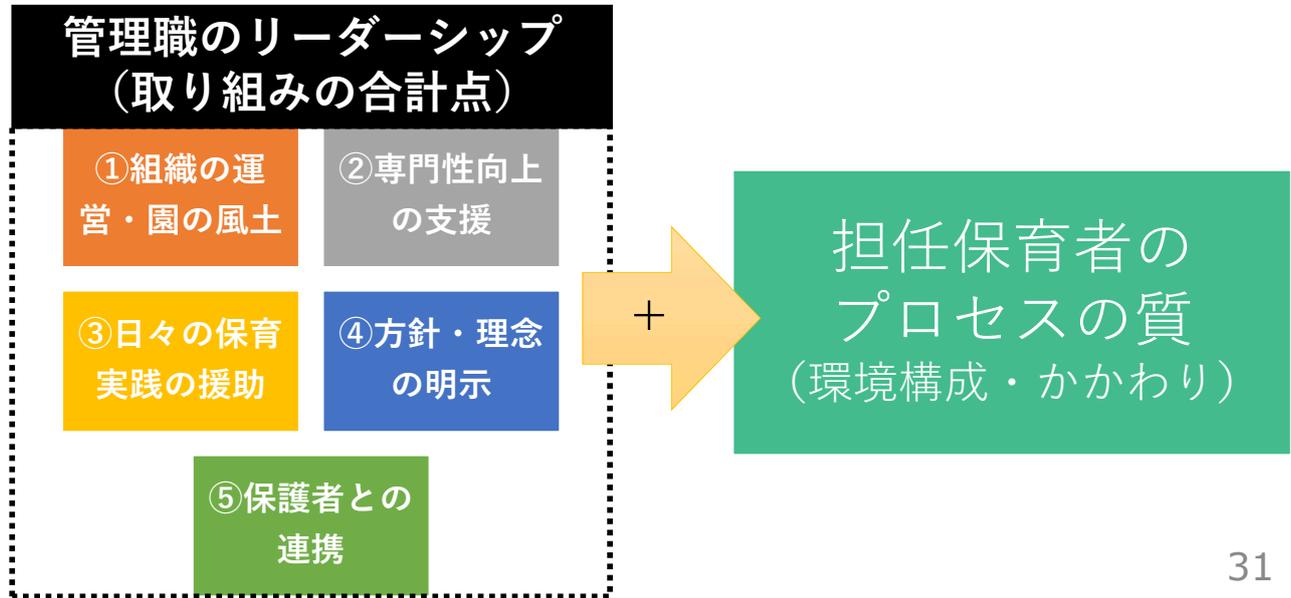
- 園長が「組織の運営・園の風土」向上に
より積極的に取り組んでいる場合、担任保育者の「人間関係にまつわる負担」「労働環境・待遇にまつわる負担」が低く、職務満足感が高い



30

リーダーシップと 「かかわり」「環境構成」

- 園長のリーダーシップ得点（5つの観点の合計点）が高いほど、担任保育者の「かかわり」「環境構成」の質得点も高かった

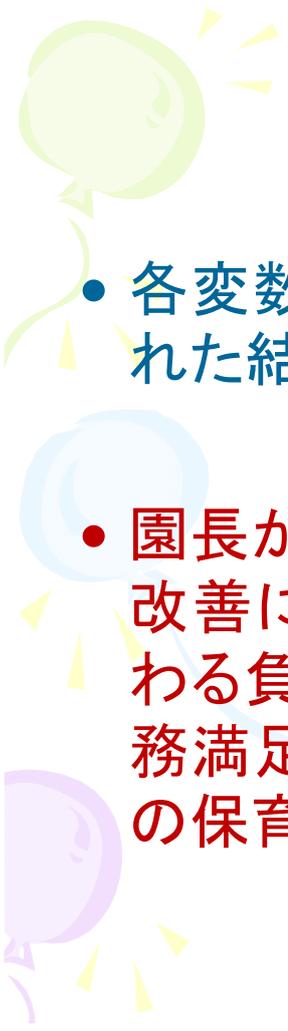


31

<結果>リーダーシップが及ぼす影響

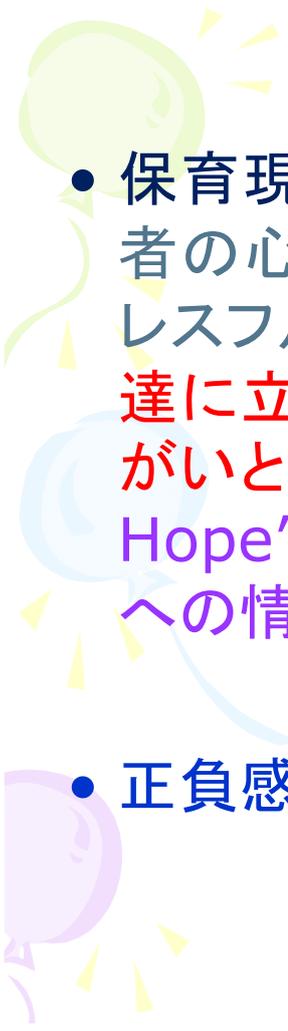
- 園長のリーダーシップ全般
→ 担任保育者の環境構成・関わりの質の高さ
- 殊に「組織の運営・園の風土」向上の取り組み
→ 担任保育者の「人間関係にかかわる負担」「労働環境・待遇に関わる負担」の低さ

32

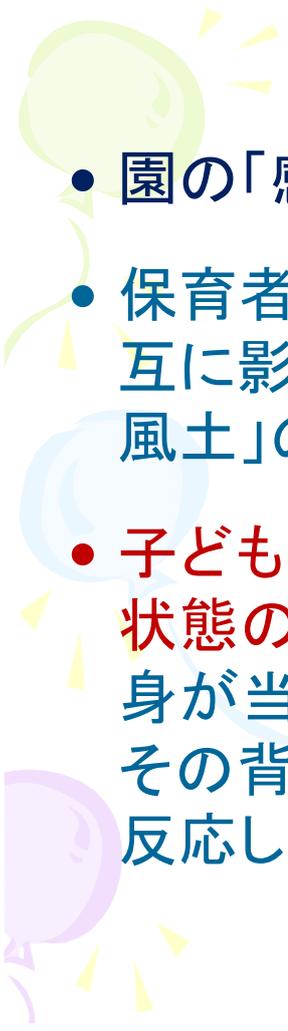
- 
- 各変数のインフォーマントが異なる中で認められた結果だけに、その含意は大きい

- 園長が現にリーダーシップを発揮し、園風土の改善に努めれば、保育者の人間関係にかかわる負担感を低下させ、さらにそれを通して職務満足感を引き上げ得る可能性、また保育者の保育の質を引き上げる可能性が高い

33

- 
- 保育現場(身体労働・心理/感情労働)→保育者の心身両面に対して潜在的にきわめてストレスフルな場として在る一方で、**個人の成長発達に立ち会い、それを自らの喜び・希望・生きがいとなし得る場でも在る**(“Other-oriented Hope”-他者の成長を自分の喜びとする・他者への情緒的投資は自身への投資)
 - 正負感情バランスを園内でいかにとり得るか？

34

- 
- 園の「感情風土」→子どもの発達にも深く関与
 - 保育者個々の感情状態と園の「感情風土」は相互に影響し合う、そして子どもも園特有の「感情風土」の下で成育する
 - 子どもを包み込む「感情風土」は子どもの心的状態の安定性を大きく左右し得る→子どもは自身が当事者として参加する関係性のみならず、その背景に在る第三者間の関係性にも敏感に反応し、その影響を時に強く受ける可能性あり

35



●「オープン・コミュニケーション」

正負多様な感情の経験・表出が自然に成り立ち、そしてそれが相互に受容される状況
温かく風通しのいい感情的風土

→園内の大人の心身健康・動機づけ・志気等を、そして、子どもの社会情緒的発達を支え促す

36

「スマート保育」を通じた 幼児教育・保育質向上の可能性と課題

37

Cedepが取り組んでいる子育て保育分野のSociety5.0

保育環境のセンシング

- ✓ 保育環境の質
音、光、気温、湿度、CO2
物の配置、動線
- ✓ 子どもの様子
顔認証、活動ログ、交友関係
表情認識、発話記録
- ✓ 保育者のかかわり
動線、活動量

人工知能 (AI)

解析・フィードバック
×

保育者や専門家の
解釈・意味づけ

保育者の物理的・心理的
負担の軽減と保育の可視化



安全管理

- 睡眠中の呼吸確認
- 在園児確認 (外出等検出)
- 騒音や空気悪化等の検出
- 室内の動線確認
- 園児の体温・体調検出と保護者への通知・連絡
- 保育者の疲労度検出

安全安心で質の高い
保育・幼児教育の実現、
保育者の職能開発支援へ

課題

保育者の多忙と人手不足
ノーコンタクト・タイム不足、
マルチタスク

→ヒヤリハット、安全管理の穴
→事務作業時間確保できず残業

- アナログ文化

過去記録の保存と検索や共有に限界



- 個々の子どもの一日の要約動画の自動作成と通知
- いざこざや夢中場面の検出、振り返りへの活用
- アプリ等を利用した食・睡眠や発達に関するログの収集とビッグデータ化、発達基礎科学での活用

保育の質の向上とデータの活用



幼児教育・保育の可能性と課題

- 安全管理
- 幼児教育・保育施設の衛生環境整備
- 保育者の負担軽減
- 保育者の専門性向上
- 保育記録の質向上
- 保育記録の共有（保育者同士、保護者）
- 保育記録データの活用

⇒ICT/IoT、AI等先端技術の活用可能性を検討



◆既に着手している課題

- IoTカメラとAIを用いた保育環境の評価
- 乳幼児版フードログアプリ『もぐログ』の開発
- 保育者と子どものアタッチメントに焦点化した相互作用の自動抽出プログラムの開発
- ウェアラブル型アイトラッカーを活用した保育者の実践知/技の可視化
- 「非認知」スキルに関する教育プログラムと評価ツールの開発 etc.

- センサによる環境センシング
 - CO₂濃度, 温湿度, 騒音, 振動, 気圧, 照度, 紫外線
- カメラによる行動解析

▶ センサ



Homeasure



omron

▶ カメラ



SCORERカメラキット



カメラ センサ

◆今後、着手予定の課題

- 万歩計、GPS、スマートグラス（眼電位等）を活用した保育者の労働負荷、戸外活動に関する調査
- 幼児教育・保育でのプロジェクター活用とコンテンツ開発
- ドキュメンテーション支援ツールの開発
- 子どもの行動・成長の要約/圧縮ツールの開発
- 園と保護者の双方向的コミュニケーション支援ツールの開発 etc.



アプリ画面（イメージ図）